

令和6年度 優秀映画鑑賞推進事業

門司市民会館まつり 第14回 門司シネマフェスタ



35ミリフィルムで楽しむニッポンの喜劇

笑う門には福来る

令和6年 11月16日 土

開場 10:00 / 10:30~12:01

12:45~14:35



なべおさみ

吹けば飛ぶよな男だが

監督：山田洋次

出演：なべおさみ、緑魔子、犬塚弘



フランキー堺

幕末太陽傳

監督：川島雄三

出演：フランキー堺、左幸子、石原裕次郎

令和6年 11月17日 日

開場 10:00 / 10:30~11:59

12:45~14:35



フランキー堺

あゝ軍歌

監督：前田陽一

出演：フランキー堺、財津一郎、倍賞千恵子



渥美清

おかしな奴

監督：沢島忠

出演：渥美清、三田佳子、田中邦衛

1日券 前売 1000円(映画2本+日替わりの小さなお弁当)
当日 800円(映画2本鑑賞のみ)

■当日お弁当を数量限定で販売いたします。

■当日券・招待券でご入場の方は映画鑑賞のみとなりますので、お弁当は別途お買い求め下さい。

前売券お取り扱い

門司市民会館 / 若松市民会館 / 小倉井筒屋プレイガイド

北九州芸術劇場プレイガイド(リバーウォーク北九州 5F)

下関市生涯学習プラザ

電話予約(門司市民会館 093-321-2907)

会場：北九州市立門司市民会館 JR 門司港駅より徒歩13分 / 西鉄バス「レトロ東本町一丁目」より徒歩5分 / 「関門トンネル車道口」より徒歩3分
※駐車場の数に限りがありますので、公共交通機関をご利用下さい。

[主催] 門司市民会館 / 共同企業体グループ A2K / 北九州優秀映画鑑賞推進事業実行委員会 / 国立映画アーカイブ [特別協力] 文化庁 / 一般社団法人日本映画製作者連盟

全国興行生活衛生同業組合連合会 / 株式会社 KADOKAWA [後援] 北九州市 / 北九州市教育委員会

お問合せ：北九州市立門司市民会館 (9:00~22:00) 北九州市門司区老松町3-2 TEL 093-321-2907 www.g-a2k.com/moji

吹けば飛ぶよな男だが

11/16 (土) [上映時間 10:30 ~ 12:01]

[1968年 松竹] カラー/シネマスコープ/91分

[脚本・監督] 山田洋次 [脚本] 森崎東
[出演] なべおさみ、緑魔子、犬塚弘、芦屋小雁、
佐藤蛾次郎、ミヤコ蝶々、小沢昭一



『男はつらいよ』シリーズでおなじみ、山田洋次監督の初期傑作の一本。チンピラやくざと貧しい生まれの女の恋模様を描いた、ほろ苦くちょっぴり哀しいコメディ映画。

家出娘を引っかけようとする仲間と綱を張っていた大阪のチンピラ・サブ(なべおさみ)は、そこへ現れた花子(緑魔子)の誘惑にまんまと成功、仲間は資金稼ぎのため花子をだましてワイセツ映画を撮ろうとたくらむ。だが、撮影を泣いて拒む花子を不憫に思ったサブは、花子を連れて逃げ出した……。なべおさみ、緑魔子という異色コンビの名演が光る。またミヤコ蝶々、犬塚弘といった脇役陣、小沢昭一による活弁調の解説も味わい深く、この作品に独特の彩りを添えている。

「キネマ旬報」ベストテン第10位。

11/16 土

幕末太陽傳

11/16 (土) [上映時間 12:45 ~ 14:35]

[1957年 日活] 白黒/スタンダード/110分

[脚本・監督] 川島雄三 [脚本] 田中啓一、今村昌平
[出演] フランキー堺、左幸子、南田洋子、石原裕次郎、
芦川いづみ、小林旭、岡田真澄



時は幕末、品川の遊郭・相模屋にやってきた佐平次(フランキー堺)は、勘定を気にする仲間を尻目に、呑めや歌えやの大騒ぎ。しかしこの男、なんと懐には一銭も持ち合わせていなかった……。

居残りを決め込み相模屋に居ついた佐平次は、店の雑用を一切引き受けることに。お調子者で機転のきく佐平次は相模屋で攘夷を画策する高杉晋作(石原裕次郎)らとも交流し、すっかり遊郭の人気者となるのだが……。古典落語『居残り佐平次』『品川心中』を下敷きに、江戸の色町で繰り広げられる騒動を描いた傑作時代劇コメディ。個性的面々の好演も面白く、波乱万丈の人情喜劇がパワフルに描かれている。

「キネマ旬報」ベストテン第4位。この作品でフランキー堺は主演男優賞を受賞した。

あゝ軍歌

11/17 (日) [上映時間 10:30 ~ 11:59]

[1970年 松竹] カラー/シネマスコープ/89分

[脚本・監督] 前田陽一 [脚本] 満友敬司
[出演] フランキー堺、財津一郎、倍賞千恵子、北林谷栄、
城野ゆき、大村崑、人見明



戦地で気のふれた真似をして陸軍の野戦病院に入り、死を逃れた二人の男。終戦を迎えた勝造(フランキー堺)とカトやん(財津一郎)は、戦没者をまつ神社へ遺族を案内する怪しげな観光ガイドとして暮らしていた。勝造は神社に行けば巫女の桜子(倍賞千恵子)に逢えるとウキウキ。そんな彼らのもとへ、一人息子を戦地で亡くした婆さん、未亡人、妊娠している家出少女、ヒッピー風の男が次々と転がりこみ、テンヤワンヤとなる。ある日、カトやんに大口の仕事が舞い込んできた。大喜ぶする二人。しかし、依頼人の理事長はかつて悪名高き鬼軍医だったのだ……。

水前寺清子が歌う『九段の母』をはじめ劇中の所々に軍歌が挿入され、作品のリズムを築いている。クスリと笑わせホロリと泣かせる、反戦コメディ映画の傑作。

11/17 日

おかしな奴

11/17 (日) [上映時間 12:45 ~ 14:35]

[1963年 東映(東京)] 白黒/シネマスコープ/110分

[監督] 沢島忠 [脚本] 鈴木尚之
[出演] 渥美清、三田佳子、南田洋子、加藤嘉、
清川虹子、田中邦衛、佐藤慶



自ら「珍顔」を名乗り、戦後の落語界で爆発的な人気を誇った天才落語家・三遊亭歌笑。その短い一生を笑いと涙で描いた人情ドラマ。春男(渥美清)は、軍人にあこがれるも、ド近眼と容姿のまずさで徴兵検査にも落とされる始末。一念発起、落語家になろうと故郷を捨てて上京し、金楽師匠のもとになんとか潜り込む。懸命に修行につとめ、やっと春男が高座に立つ日がやってきた。しかし、そのあまりの下手さ加減には師匠も呆れるばかり。なかなか芽が出ることなく腐っていく春男。そんなある日、初恋の人・おひさ(三田佳子)から石川啄木の詩集をもらう……。

歌笑を演じた渥美清の名演が胸を打つ、『寅さん』以前の隠れた代表作。